

被曝による甲状腺がん多発を否定する2つの報告書
その検証と健康被害の実情を考える

県民健康調査の目的及び
甲状腺がん当事者から見る過剰診断、
甲状腺検査縮小論

3・11甲状腺がん子ども基金・高木学校
崎山 比早子

日時：2023年3月3日

場所：福島大学＋オンライン

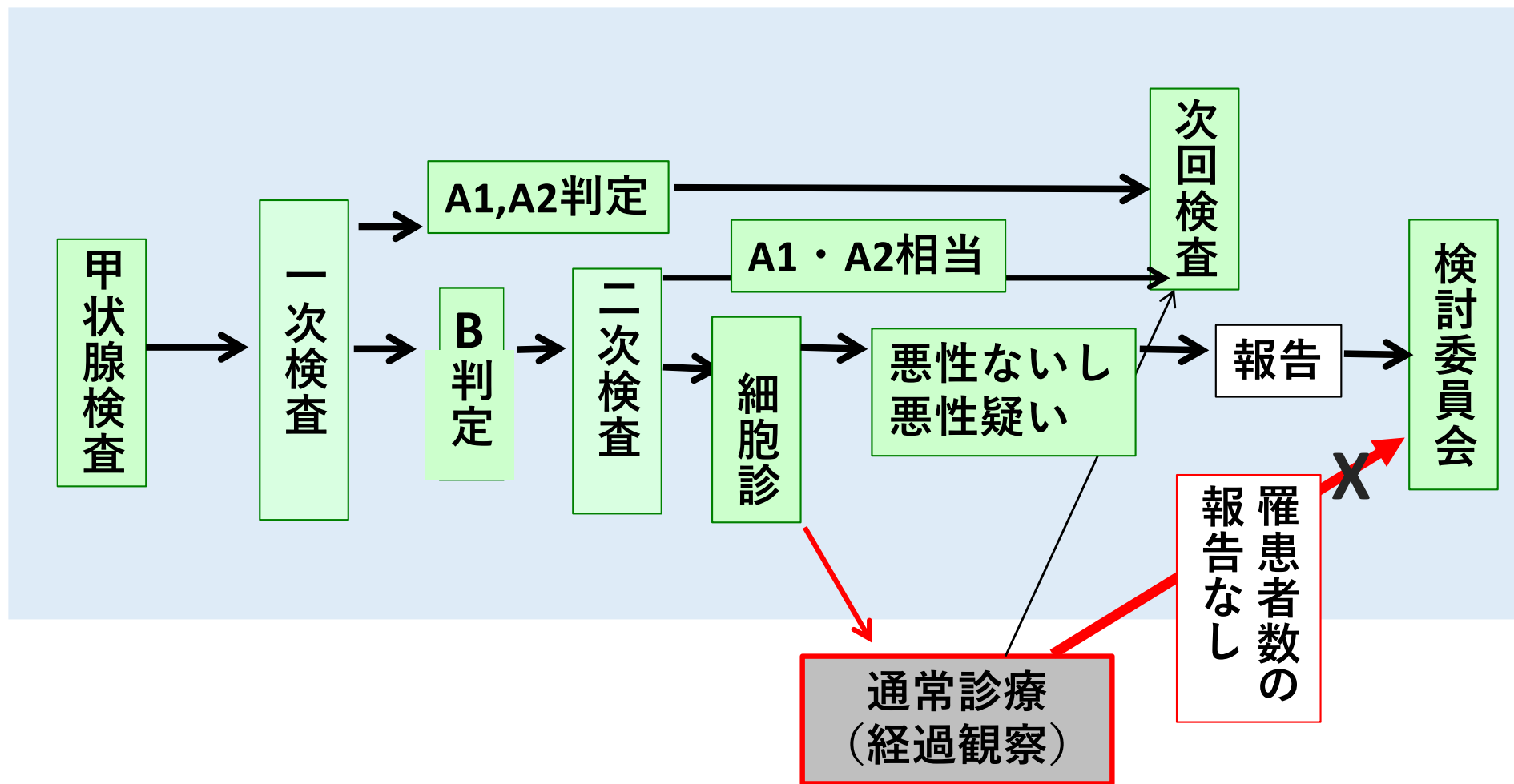
福島県民健康調査で発見された甲状腺がん

第46回県民健康調査検討委員会（2022年12月2日）発表まで

	一巡目検査 (2011～2013)	二巡目 (2014～2015)	三巡目 (2016～2017)	四巡目 (2018～2019)	五巡目 (2020～)	節目検査 (2017年～)	計
悪性ないし 悪性疑い	116	71 前回異常なし:33	31 前回異常なし:7	39 前回異常なし:6	23 前回異常なし:7	16	296
男女比	39:77	32:39	13:18	17:22	5:18	4:12	110:186
がんと診断	101 良性:1	56	29	34	7	10	237 良性:1
受診者数 (受診率)	300,472 (81.7%)	270,552 (71.0%)	217,922 (64.7%)	183,407 (62.3%)	80,205 (31.7%)	9,841 (9.1%)	

2～5巡目、2年間で異常なしから少なくとも5.1mm増大した人は：
164人中53人(32.3%)

正確な甲状腺がん罹患患者数の把握ができない甲状腺検診



2016～2018年のがん登録で把握された症例数：43

3・11甲状腺がん子ども基金が把握している症例数：8

福島医大による被ばくと発がんの相関関係分析にこの集計漏れのどれだけが組み込まれているのか不明

福島医大による被ばくと甲状腺がん多発の相関関係分析は 被ばく影響を否定

- 福島医大：山下俊一氏の米国NCRP総会での講演（2013年3月11日）
「福島原発事故と包括的健康リスク管理」
- ・ 1巡目検査が1/10（37,000人）終了し、
悪性ないしその疑い10人、悪性確定が3人
甲状腺がんをスクリーニング効果と発表
 - ・ 現在も高感度超音波機器を使用したスクリーニング
によるとしている。

検討委員会：1巡目、2巡目について数十倍の多発
線量との相関関係を否定
放射線被ばくの影響とは考えられず、将来的に
臨床診断されたり死に結びつかないようながんを
多数診断している過剰診断の可能性



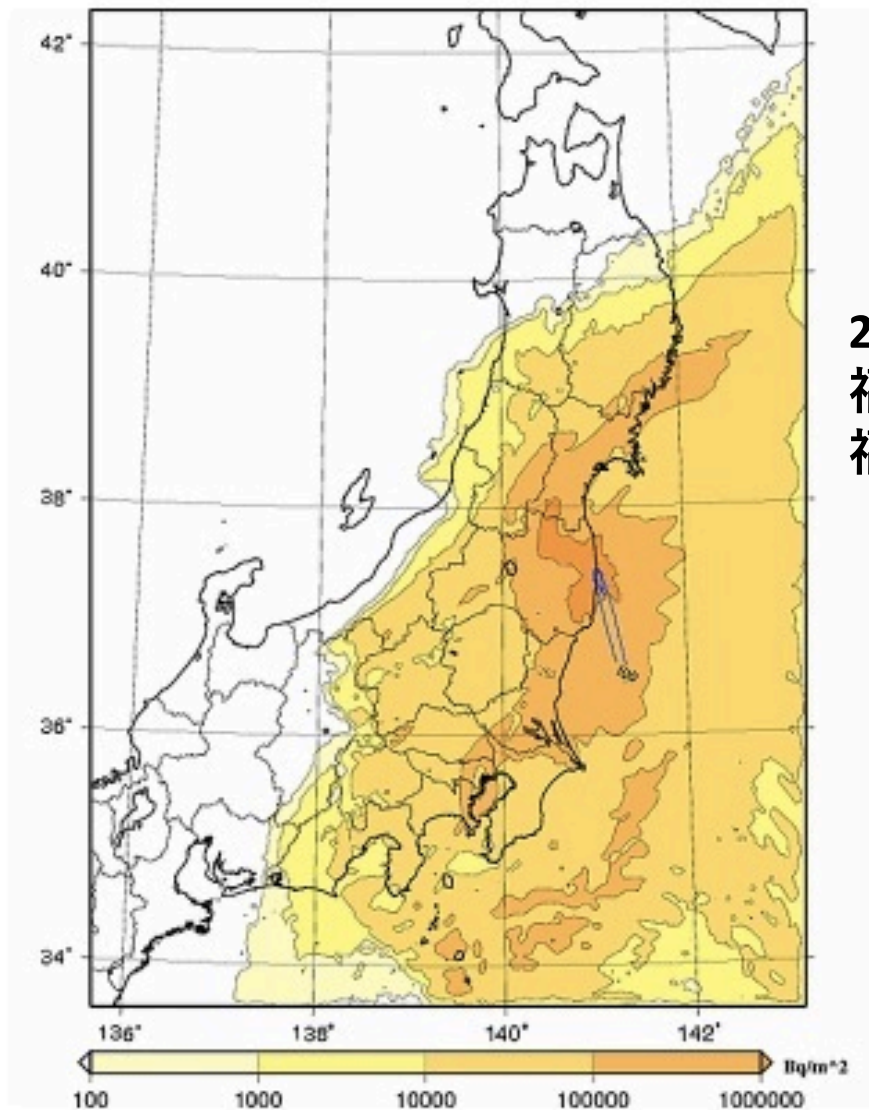
検討委員会のこれからの計画

過剰診断のデメリットを避けるため
甲状腺検診の縮小を図っている。

がんに罹患した当事者の声を聞くのではなく
検査対象者に甲状腺検診に関するアンケート調査。

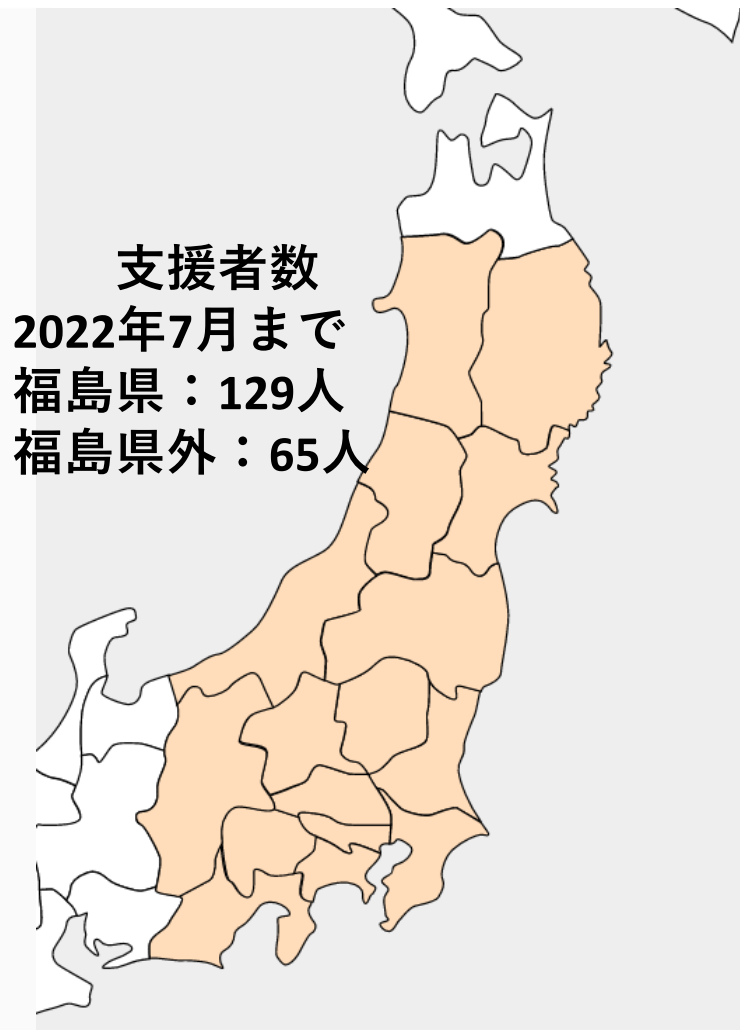
3・11甲状腺がん子ども基金は
甲状腺がん当事者にアンケート調査

東電福島原発事故による 放射性ヨウ素の拡散



日本原子力研究開発機構によるシミュレーション
(2011年3月末頃迄)

3・11甲状腺がん子ども基金の 支援範囲



18歳以下で
事故時この地域に住み事故後
甲状腺がん罹患した方を支援

3・11甲状腺がん子ども基金 によるアンケート調査

第1回：2017年8月（NHKと共同調査）

福島県：52人/60人（回答率：86.7%）

第2回：2021年1月～2月

福島県：70人/114人（回答率：61.4%）

福島県外：35人/65人（回答率：56.5%）

第3回：2022年7月～10月

福島県：112人/129人（回答率：86.8%）

福島県外：56人/65人（回答率：86.2%）



全ての報告書は記者会見で公表し第2回、第3回報告書は環境省、県民健康調査課、検討委員会、評価部会委員全員に配布
基金のシンポジウムで発表

第2回のアンケート調査結果

調査実施期間 2021年1月20日～2月28日

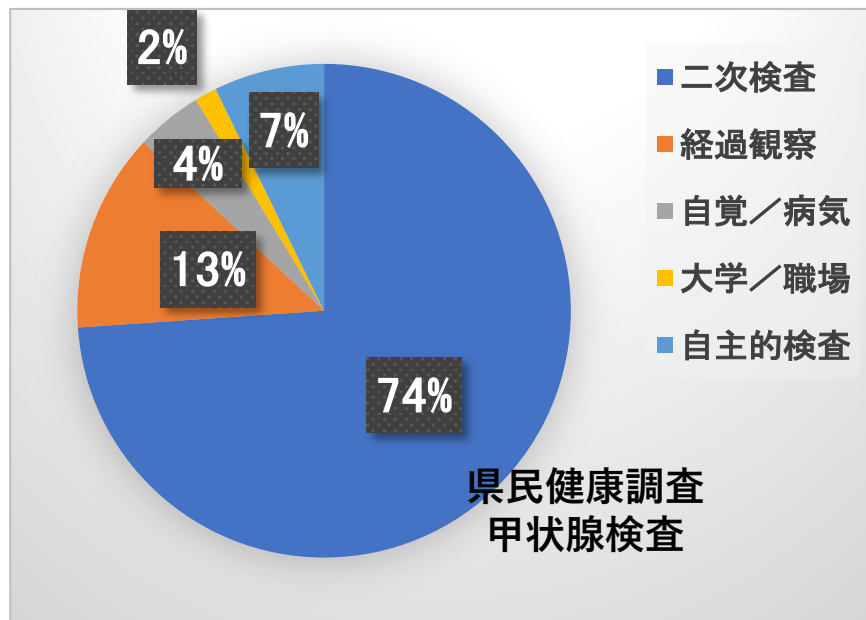
回収率（事故当時居住県）

福島県 114人中70人（61.4%）

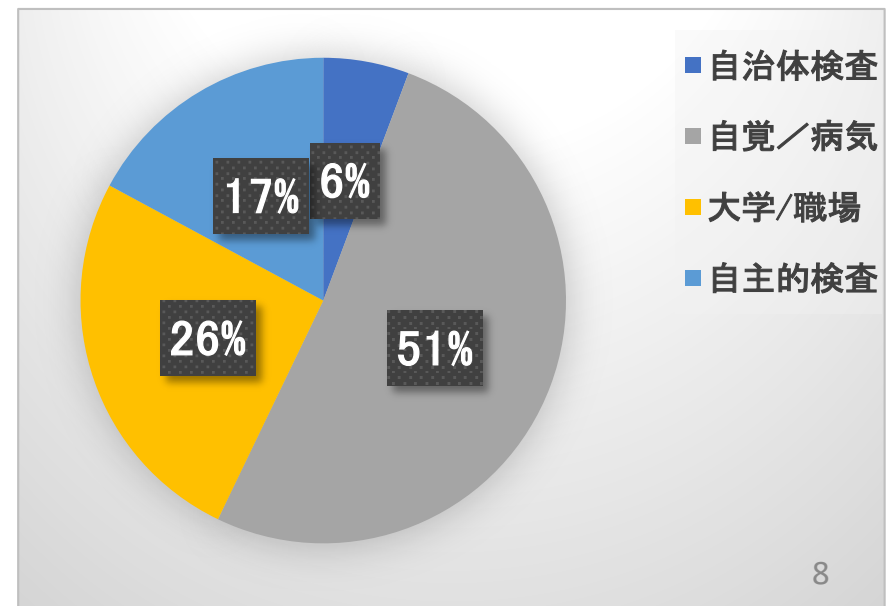
福島県外 62人中35人（56.5%）

甲状腺がんが見つかったきっかけ

事故当時福島県（70人）

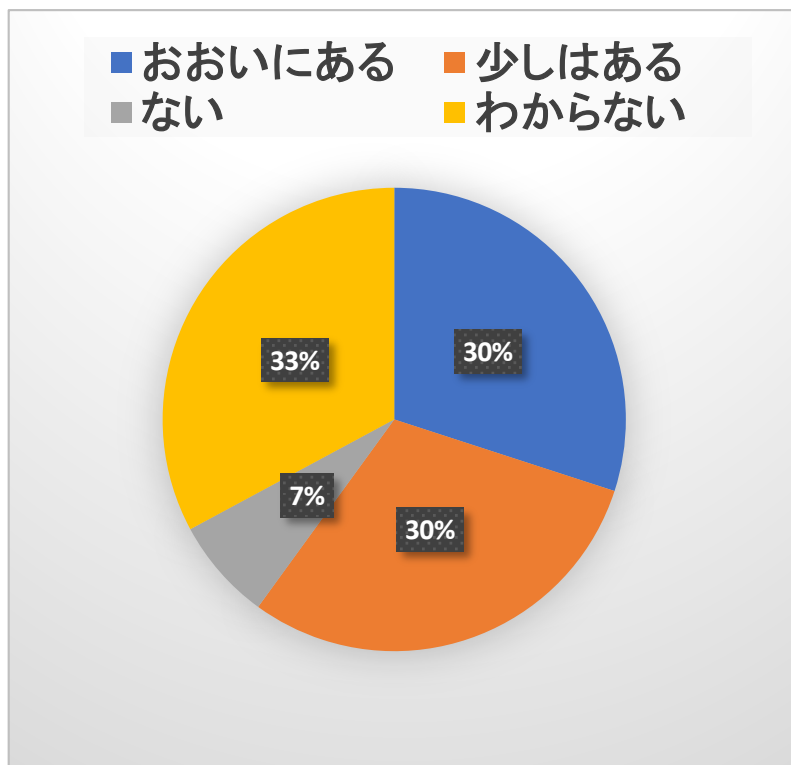


事故当時福島県外1都14県（35人）



甲状腺がんについて原発事故の影響はあると思うか

福島県内の回答

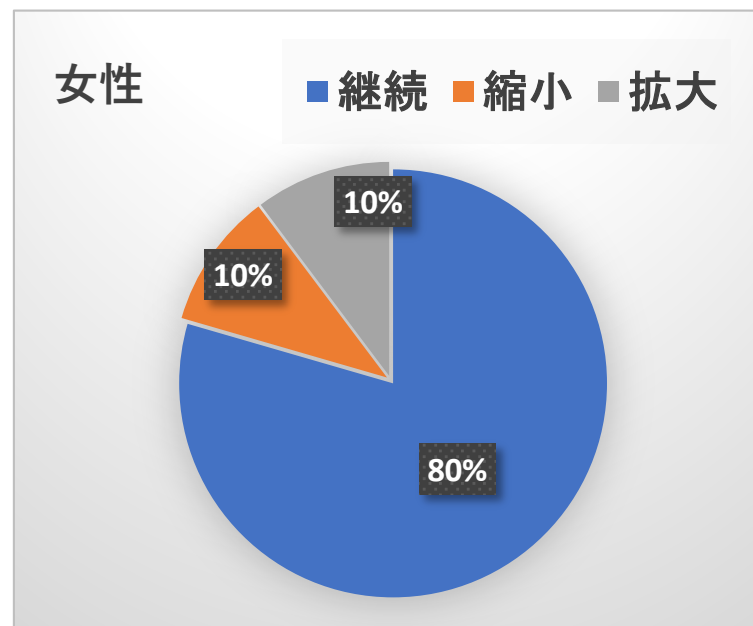
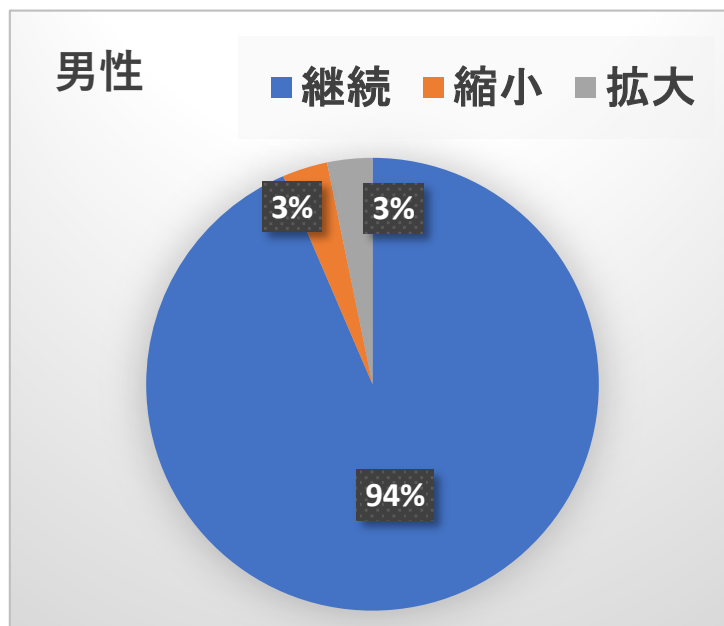


- 原発事故の影響
おおいにある＋少しはある：60%
ない：7%
わからない：33%
- 福島県外
おおいにある＋少しはある：約50%、
ない：6%、
わからない：43%

原発の影響ではない或いはわからないと答えた方には診断時、医師に“原発の影響ではない”と言われたというケースが目立った

今後の学校での甲状腺検診について

福島県内の回答



- ・「継続」(今までどおり続けたほうがよい)、ないし「拡充」(拡充したほうがよい)を希望する意見が、当事者本人で90%、保護者では100%にのぼった。
- ・当事者は、学校での検査が「早期発見」に結びついたと、その意義を認めている。

アンケート調査結果

過剰診断に対する当事者の意見

- 「手術を受ける」と選択したことが間違いだったのかもしれないと、不安を強く感じる。
- 原発事故後10年ではわからないと思う。
- 100%本当に死に結びつかないがんと言えるのか？
- 将来的に悪化するのか、悪化しないまま終わるのかわからない以上、診断が過剰になっても仕方ないように思います。
- 原発事故を起こしてしまったからには、対象者を検査しなければならないとは思う。
- 現に被曝している人がいる以上、過剰診断が起こっていたとしても診断をしていくべきだ
- 死ななかつたらいいのでしょうか？
- 死に結びつかないとかの問題じゃなく、がんには変わりないので、過剰診断というのはおかしい。他人事としか考えていない。
- 自分が甲状腺がんになったとして、このようなことを言われたらどう思いますか？
私はこのようなことが言えるのは、甲状腺がんの事を他人事のように思っているから言えるのだと思う。

過剰診断論に対し冷静な批判をしている人がいる
一方で反発、強いストレスを感じている人も多い

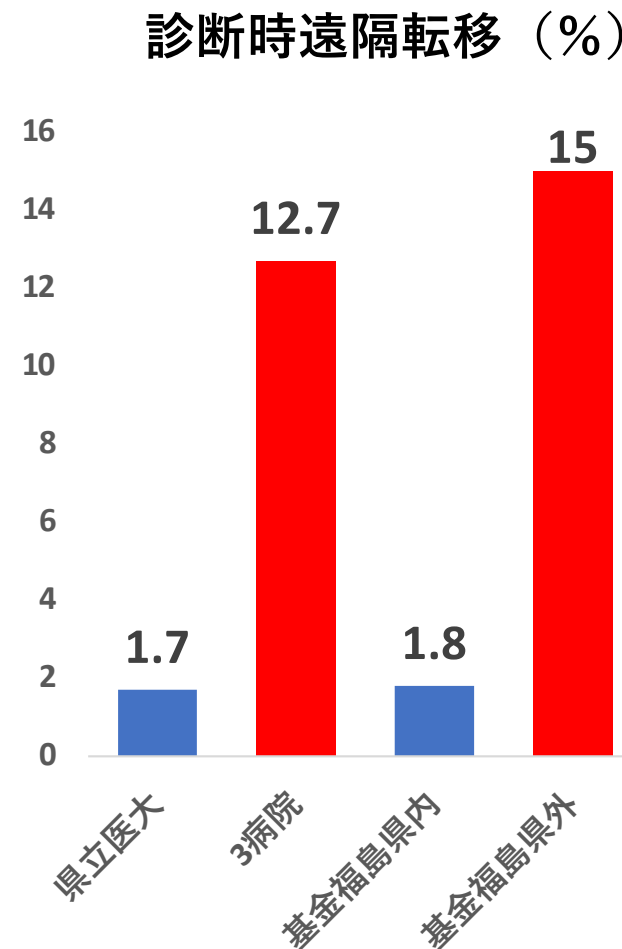
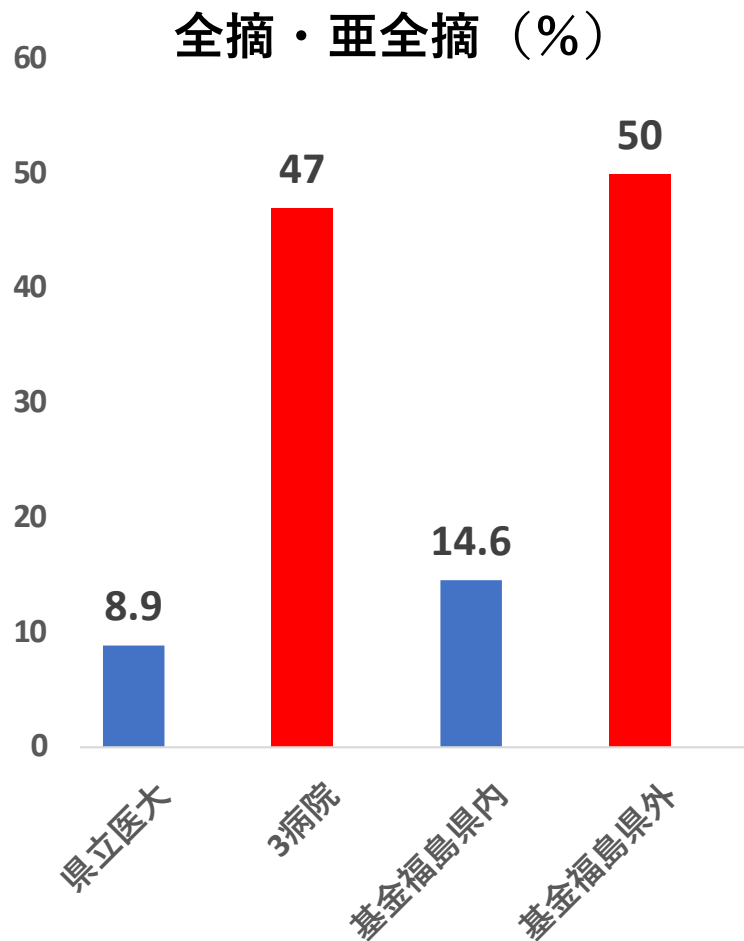
県民健康調査の目的と甲状腺検診の成果 及び 基金申請者における再手術、RI治療割合 から見た過剰診断

県民健康調査の目的：

福島県では、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、
県民の被ばく線量の評価を行うとともに、**県民の健康状態を把握し、
疾病の予防、早期発見、早期治療**につなげ、もって、
将来にわたる**県民の健康の維持、増進を図る**ことを目的とし、
「県民健康調査」を実施しています。（福島県県民健康調査課ウェブより）

福島県における甲状腺検査の有効性

3病院 野口病院：142例、隈病院：110例、伊東病院：227例	計 479例
県立医大 Suzuki S. 県民健康調査国際シンポジウム、2020	180例
基金福島県内 (2022年9月迄)：	123例
基金福島県外 (2022年9月迄)：	62例



福島県内申請者における再手術、RI治療の割合

事故時 年齢	人数 (男：女)	再手術 人数 (%) (男：女)	RI治療 人数 (%) (男：女)	RI複数回 人数 (%) (男：女)
3-9歳	24人 (14:10)	6人 (25.0%) (4：2)	6人 (25.0%) (5：1)	
10-14歳	54人 (23:31)	12人(22.2%) (6：6)	7人 (13.0%) (4：3)	1人 (1.8%) (0：1)
15-18歳	45人 (16：29)	5人 (11.1%) (3：2)	5人 (11.1%) (3：2)	1人 (2.2%) (0：1)
合計	123人 (53：70)	23人 (18.7%) (13：10)	18人 (14.6%) (12：6)	2人 (1.6%) (0：2)

事故当時低年齢ほど再手術、RI治療を受ける割合が高く、
RI複数回を除き全年齢層で男性の方が多い

参考：福島県立医大 再手術：6～7%程度（2020年2月シンポジウム発表）
RI治療：19人（11%）（2021年11月学会発表）

福島県外申請者における再手術・RI治療の割合

事故時 年齢	人数 (男:女)	再手術 人数 (%) (男 : 女)	RI治療 人数 (%) (男 : 女)	RI複数回 人数 (%) (男 : 女)
2-9歳	14人 (3 : 11)	3人 (21.4%) (1 : 2)	4人 (30.8%) (1 : 3)	2人 (15.4%) (1 : 1)
10-14歳	18人 (5 : 13)	2人 (11.1%) (0 : 2)	9人 (50.0%) (3 : 6)	5人 (27.8%) (2 : 3)
15-18歳	30人 (6 : 24)	4人 (13.8%) (1 : 3)	9人 (31.0%) (5 : 4)	3人 (16.7%) (0 : 3)
合計	62人 (13 : 49)	9人 (14.5%) (2 : 7)	22人 (35.5%) (9 : 13)	10人 (16.1%) (3 : 7)

再手術は事故時2-9歳、RI治療は事故時10-14歳の割合が最も高かった。
RI複数回を含め全年齢層で女性の方が多い

結論に変えて:当事者が政府、県、東電に望むこと

政府、県、東電の責任を問う声は多く、当局への不信の声も目立った

- ・とにかく誠実であって欲しい。(20代女性・中)
 - ・本当のことを伝えて欲しい。(10代男性・浜/母)
 - ・東電の事故がなければ避難も被ばくもしなかったはず、地震のせいだけではないと思うし、(中略)国にも県にも責任をきちんと取って欲しい。(10代女性・避)
 - ・何年先、何十年先も県民の健康を見ていく責任を負って欲しい。(10代男性・中)
 - ・原発事故と甲状腺がんの関係を認めて欲しい。がんになってしまった方々に少しでも保証して欲しい(10代男性・中/母)
 - ・医療面、経済面で継続的支援があると安心です。(20代女性・浜)
- 福島県外の患者からは福島県と同様に検査や治療に対する支援を望む声が多かった。

小児期、青年期のがんは高齢者のがんと異なる
特有の不安や悩みを生じる。

これからの長い人生に対し、経済面、心理的での
十分なサポートを望む声は切実である。

政府、県、東電は誠実に被害者に向き合って欲しい。

原発事故と甲状腺がん 当事者の声をきく vol.3



3・11 甲状腺がん子ども基金
シンポジウム

3/25(土)
14:00~16:00
会場：郡山市
& オンライン

原発事故後の福島県の検査では、すでに 300 人を超える人が甲状腺がんと診断されました。

そんな中、「治療の必要のないがんを見つけている過剰診断」と主張し、検査を縮小すべきという意見がでています。

しかし、当基金の調査データや、臨床の場から「過剰診断ではない」ことは示され、当事者も検査の継続を望んでいます。

甲状腺がん当事者の現状を知ってください。
みなさまのご参加をお待ちしています。

※「甲状腺がん当事者アンケート報告書」は、HP よりダウンロード可能です。

【主催・問合せ】
NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金
☎03-5369-6630 ✉info@311kikin.org 📍311kikin.org

日時 2023年3月25日(土) 14:00~16:00

参加費 無料

プログラム

【第1部】14:00~ 《報告》

- 基金データから見る「過剰診断論」の問題点
崎山比早子 (3・11 甲状腺がん子ども基金)
- 「手のひらサポートアンケート 2022」に寄せられた声

【第2部】15:10~ 《トーク》

- 「当事者の声をきく vol.3」
出演：当事者（お一人は会場発言の予定）
コメント：富田 哲さん（福島大学教育推進機構特任教授）
高橋征仁さん（山梨大学人文学部教授）

参加方法 / 2つあります

オンライン参加

Zoom ウェビナー

オンライン参加
申込みはこちらから▶



会場参加 (先着70名)

福島県郡山市音楽・
文化交流館
「ミュールがくと館」
中ホール
郡山市開成 1-1-1



会場参加
申込みはこちらから▶



▼いずれも事前登録をお願いします。

3月25日（土）
「原発事故と甲状腺がん
当事者の声を聞く」第3回
会場：郡山市ミュールがくと館
オンラインのハイブリッド
是非ご参加下さい。

ご清聴ありがとうございました



3・11 甲状腺がん子ども基金
3·11 Fund for Children with Thyroid Cancer

3・11 甲状腺がん子ども基金は、原発事故後に甲状腺がんと診断された子どもたちを支援しています。